シリーズ　尻屋埼灯台（第１回）～尻屋埼灯台の建設まで①～

八戸海上保安部

東通村の観光シンボルで、「日本の灯台５０選」でもある尻屋埼灯台は、本年１０月２０日をもって明治９年の初点灯から１３６周年を迎えます。この長い歴史にあって、太平洋戦争中に米軍艦載機の空襲により灯台の一部を破壊され、点灯不能を余儀なくされた時期もありましたが、春夏秋冬、尻屋崎の沖を照らし続け、今もなお当時の勇姿のまま、白亜の灯台がまばゆいばかりにそびえ立っています。

「シリーズ　尻屋埼灯台」では、数回に分け、尻屋埼灯台の歴史についてご紹介いたします。

【灯台の生い立ち】

岬や島の上に石などで塔を建てて、焚き火をしたり、煙をあげたりして、 舟の目標とすることを考え出したのが灯台のそもそもの始まりです。世界で一番古い灯台は、紀元前２７９年にエジプトのアレキサンドリア港の入口、 ファロス島に建てられたファロス灯台と言われています。

日本では、今から約１３００年前の昔、唐（中国）に派遣した遣唐使を乗せた船が行方不明になることがあったので、帰路にあたる九州地方の岬や島で、昼は煙を上げ、夜は火を燃やして船の目印にしていたそうです。

江戸時代になると、「かがり屋」や「灯明台」と呼ばれる日本式の灯台が、各地の大名や商人達によって建てられるようになりました。このころの灯台は、石積みの台の上に小屋を建て、その中で木を燃やす仕組みのものでした。このような灯明台は、明治の初め頃までに１００基以上建てられました。このほか、海岸近くの神社の境内にある常夜灯で灯台の役目をしていたものもあり、今でもその言い伝えのある石灯ろうが所々に残っています。

【西洋式灯台の誕生　～尻屋埼灯台の建設～】

日本が尻屋埼灯台のような西洋式灯台を建てるようになったのは、今から１４６年前の慶応２年（１８６６年）、徳川幕府がアメリカ・イギリス・フランス・オランダの４ヵ国と結んだ改税約書（江戸条約）に基づき、灯船２隻を含む１０箇所の西洋式灯台建設を約束したことが始まりです。

このように西洋式灯台を建設することは決まりましたが、当時の日本にはその技術力が無かったことから、イギリスとフランスに灯台のレンズや機械の買入と指導を依頼しました。こうして灯台の建設は、イギリス人技師Ｒ．Ｈ．ブラントンほか２名により建設場所の調査・設計が行われ、明治２年（１８６９年）に国内初の西洋式灯台である観音埼灯台（神奈川県）が点灯しました。尻屋埼灯台は、それから遅れること４年の明治６年（１８７３年）６月に着工、明治９年（１８７６年）１０月２０日に完工し、東北で最初、全国で２２番目に点灯しました。

尻屋埼灯台（大正時代）

東通牛の特売日！

7月9日・19日・29日

野牛川レストハウスにて販売！！

※29日は牧場まつり会場にて販売いたします！

最高級黒毛和牛の牛肉を
是非ご賞味ください。
最高級の牛肉といわれる黒毛和種は
東通村の特産です。ぜひ、この機会に！

○問い合わせ先
社団法人 東通村産業振興公社
〒035-0103　青森県下北郡東通村大字野牛字野牛川61-6
TEL.0175(47)2115・(47)2266　FAX.0175(47)2113